平成２２年度第２回文学館協議会議事録

１　日時　　　平成２３年３月９日　午後２時から

２　場所　　　文学館研修室

３　出席者　〇協議会委員

・ 数野強・橋本朝生・古屋未知男・向山文人・乙黒幸江・小野正・水垣彩

・ 益田洋美・辻泰

○ 学術文化財課：一瀬課長・中込主査

○ 文学館：高山副館長・井上学芸幹・古屋総務課長

文学館担当４名・指定管理者２名

４　議事

（１）平成２２年度事業報告について

（２）平成２３年度事業等について

５　議事の概要

議長：平成２２年度事業報告、平成２３年度事業について事務局から説明があったがご意見・ご質問等あったらよろしくお願いしたい。

委員Ａ：２２年度事業で、新田小学校の児童が学芸員となり、樋口一葉のギャラリートークを行っていたと新聞にも掲載されていたが、新田小学校との連携事業は、どのジャンルに位置づけられるのか。また、今後どう展開するのか。

事務局：文学解説、各種講師派遣事業に属する、「文学教室」に位置づけられる。

新田小学校の６年生が、５年生の３学期から校外学習として常設展の一葉コーナーで学習してきた。文学館で作成した教育普及資料である樋口一葉資料集を、６年生の人数分図書室に置いて、学校でも常に学習していただくことにした。昨年１２月に２回開催し、保護者や地域の方にも来館していただき、常設展の一葉コーナーに各担当を決め、全員の児童に解説していただいた。来館者や地域の方々も、子どもたちが立派な解説をしたと感動していた。来年度も文学館としては行っていきたい。しかし、この事業は、学校の「総合的な学習の時間」を使って学習しているが、来年度は総合的学習時間数が減る見込みであることから、学校との相談をして行きたい。

会長Ｂ：昨年テレビ等で報道され、大変手間と時間がかかることであるが、郷土ゆかりの偉人を知ることは大変重要なことであり、できれば続けてほしい。現在開催されている新収蔵品展は、文学館と美術館で開催していて、時期的に両館の連携とれていてよかった。

委員Ｃ：アートツアーで多くの参加者があるが、その人たちに文学館へお入りいただくことが出来ないか。文学館としてはどう取り組んでいるのか。

事務局：文化芸術に触れるきっかけづくりとして、サントリー白州工場で工場案内をして

いたベテランのスタッフ２名が解説員として対応している。４５分ほどかかるが、芸術の森公園への誘致の一助になるような工夫をしている。６５歳以上の方には声かけだけではなく、無料券をお渡しして文学館の観覧をすすめはしている。

委員Ａ：平成２３年度事業は、二つの企画展とも非常に興味深い企画展だが、文芸映画の楽しみについては、山梨との関わりを意識しているか。

事務局：山梨との関わりのコーナーを設ける予定である。富士の国やまなしフィルムコミッションと連携をとり、最近、県内で撮影された映画のポスター等も提供していただき、ロビーなどを使って紹介していく。一方、山梨出身やゆかりの増村保造監督・菊島隆三脚本家についても紹介していく。

委員Ａ：企画展と名作映画鑑賞会が関連づけられて非常に良いと思うが、三島由紀夫主演、増村保造監督、「からっ風野郎」とか出てくるとさらに良いと思う。

事務局：おっしゃるとおりである。ポスターやチラシの中で紹介し、さらに展示で紹介した映画を上映できれば良いのだが、上映権の問題で文学館の講堂で上映できるものにも制限があって実現できない。

会長Ｂ：山本周五郎の作品にも山梨が舞台のものがある。できればこういうのも上映できればと思う。

常設展をリニューアルして飯田蛇笏・龍太記念室等を開設したが、アンケート等での評判はいかがか。こういう施設のベースは常設展だと思うがいかがとらえているか。

事務局：記念室そのものだけのアンケートはとってないが、年間通して施設全体に関するアンケートをとっている。オープン直後のアンケートでは、リニューアルしたので見に来た、見やすくなった、関連性ができた、分かりやすくなり勉強させてもらった等々、飯田親子を初め山梨ゆかりの方々を展示したことに関する、良いアンケート結果が多く見られた。

委員Ｄ：教育普及事業の近隣の小学校との連携、地域との関係はすばらしい。今後も、様々なジャンルで文学館を利用した事業が増えていってもらいたい。

委員Ｅ：「くじらぐもからチックタックまで」で中川李枝子さんの講演会に参加した親子が感銘を受け、もう一度中川さんの話を聞きたいと言う要望が地域の生涯学習館に寄せられた。そこで、中川さんと連絡をとり、平成２３年秋に玉穂生涯学習館にお招きすることになった。文学館の事業をきっかけに、いい講師とつながりができた。

委員Ｂ：文学館の講座に参加したことにより刺激を受け、ことぶき勧学院の文芸コースに入って勉強したいと言う方もいる。企画もすばらしいので、自信をもってこれからも頑張っていただきたい。

委員Ｆ：「くじらぐも」はとてもいい企画だった。今後も、さらなる学習のきっかけになるものを取り上げてほしい。美術館との連携も進めてほしい。

委員Ｇ：夏の特設展に観覧者が１万人とは驚いた。館の認知度があがったと思う。

委員Ｈ：女性のための短歌教室は、ターゲットを若い世代にしたということだが、広報はどのようにしたのか、今までと変えたのか。

事務局：ホームページの告知とチラシ配布だが、チラシをスポーツクラブ等にも配布するよう工夫した。その他、新聞に掲載してもらった。

委員Ｉ：熱心で多様な取り組みにより観覧者も増えて感心した。文学へ導くことは、通好みの狭い世界に入り込みやすいが、小学生、一般の方を導く試みに感心した。

映画についても、一般の方が親しみやすい企画で、楽しみである。

企画展は、山梨に関連した企画も良いが、山梨にこだわらなくても、来館者増を目指す企画があってもよいのではないか。

文学館は、周囲や建物もきれいで、展示もしっかりしている。文学不毛の地と言われた本県で、ここまで熱心に取り組んで、裾野を広げてくれていることはすばらしいと思う。

会長Ｂ：山梨へのこだわりも重要であるが、幅広い層を対象に展示内容を企画し、さらに、入館しやすい雰囲気も必要である。山梨は俳句が盛んで人口も多い。こういうものを大事にする部分と、これにこだわらず幅広く考えることも大切である。